

改訂版の序

本書の初版である『緩和医療レッスン』が出版されてから7年になりました。その間、医学の進歩だけでなく医療制度そして一般市民の医療に対する考えも大きく変化しました。そこで、今後とも読者に役立つ書になってほしいと思い、内容の見直しとともにタイトルも刷新し、改訂の運びとなりました。

今回の改訂にあたっては次の点に留意しました。

- 1：基本的で10年後も変わらない知識や考えはそのままとした
- 2：保険請求や制度上に関することは今後、変化するので、その点を留意し記載した
- 3：患者さんだけでなく医療者の心のケアにも役立つことに留意した

また、読者の方へのお願いとして、薬については現時点で使用可能なものを記載しましたが、今後その評価は変わることもあると思われるのでその点は留意していただきたいと思います。

この改訂版が、すべての医療者に役立ち、初版の既読者にとっても満足できるものになってほしいと願っています。

最後に、本書の改訂に献身的努力をしてくださった羊土社編集部に深く謝意を表します。

2015年2月

愛すべき2匹の老犬に寄り添われて
沢村敏郎

初版の序

私は1980年に医学部を卒業し、すぐに外科医として臨床に従事しました。患者さんを診て、手術を行い、合併症に悩み、再発すれば最期まで診療してきました。そうするのが当たり前で、外科医の務めと思っていました。ですから緩和医療の必要性が叫ばれるようになって、逆に違和感がありました。なぜなら、緩和ケアは特別な分野ではなく、日常診療そのものだったからです。

しかし20世紀末までの癌専門病院や大学病院の緩和医療の実情は地方の病院よりもお粗末でした。そのような経緯をふまえ、現場の医療から得た知識やノウハウを世に発信することは私に与えられた使命と考えました。

21世紀になり政策的にも『がん対策基本法』が成立し、緩和医療の充実とともに緩和ケアチームの設立が誘導されるようになりました。しかし十分な質が保証されている施設は多くありません。本書は、そのレベルアップの一助になることを目的に作成しました。

本書は、にわか作りのマニュアルやハウツー本ではありません。その内容は、私だけでなく看護師や薬剤師そして栄養士などが経験したことや、問題になった事例をレッスンの形で紹介するとともに、私と縁あって一緒に歩んだ患者さんから教えられたエッセンスを示しています。ですから研修医の勉強になるだけでなく、一般医にとっても共感できる内容と思っています。また医師だけでなく、看護師や薬剤師の皆様にとっても理解でき役立つことを目的にしています。とくに緩和ケアチームの一員は、必ず知っておいていただきたい内容です。

本書は、レジデントノート誌に連載した内容を最近の医療現場に即して見直すとともに、新たに項目を追加しました。

とにかく多くの医療者に読んでいただいて、楽しく、面白く学習でき、かつすぐ役立つことを目標にしております。それだけでなく読者の皆様が、何かそれ以上のものを本書から得られたら、私の企みは成功したことになります。

2008年5月

沢村敏郎